第３回鳥取・広島両県知事会議　議事録

〔開催日時〕　平成２５年８月２３日（金）　１４：００～１５：３０

〔開催場所〕　庄原市高野町宿泊施設　高野町ふるさと村高暮（こうぼ）

〔出 席 者〕　平井伸治鳥取県知事、湯﨑英彦広島県知事　他

１　開会

【田邉審議官】それでは、ただ今から第３回鳥取広島両県知事会議を始めさせていただきます。私は、本日の進行を務める広島県の経営戦略審議官の田邉でございます。どうぞよろしくお願いします。

まずはじめに、湯﨑広島県知事がごあいさつを申し上げます。

２　両県知事あいさつ

【湯﨑知事】本日は大変お忙しい中、平井知事また鳥取県の皆さま、ようこそ広島県においでいただきましてありがとうございます。

ここ全体は庄原市の一部でございまして、ご承知のとおり庄原市は鳥取県とも県境を共有するところでございます。この広島県と鳥取県のつながっているところでこういう機会を持たせていただけるというのは、本当に私もうれしく思っているところでございます。

先ほどご覧いただきました道の駅たかのは、今年オープンした道の駅でございまして、これは地域おこしの、特に過疎地域をいかに維持していくかというモデル、大きなシステムのモデルとしているところでございまして、その一端を少しご覧いただけたのではないかと思っております。

また、この場所はふるさと村高暮というところでございまして、小学校の廃校跡を改装したものでございますけれども、ここは今、都市と農村の大人と子どもの学校という形で活用させていただいておるところでございます。自然が豊かな素晴らしい環境の場所でございまして、まさに人と自然の関わりを学ぶ上で非常に貴重なところではないかと思っております。

広島県、鳥取県、両県においてはこういった地域の資産というものがたくさんあるのではないかなと思っておりまして、さまざまなこういう自然豊かな、あるいは都市を含めて非常に多様な資産の中からさらなる地域の発展というのを考えていきたいと思っているところでございます。

この会議は今回で３回目となっております。昨年の会議で平井知事からご提案をいただきました子育て同盟。これが無事10県の連携によって実現をすることとなりましたし、その中で先月は米子におきまして、子育てサミットも開催することができました。これも素

晴らしい成果であったと思っております。

このほか、観光分野におきましても花めぐりでの連携であるとか、あるいはまんが博と広島の菓子博を相互 PR するなど、この会から出てきたさまざまな成果が着実に表れていると思っております。

本日も、この中国地方のさらなる発展に向けて両県が連携をして、また新しい成果を生むことができるように心から期待しておりますので、どうぞ忌憚のない意見交換ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【田邉審議官】続きまして、平井鳥取県知事よりごあいさつをお願いいたします。

【平井知事】皆さま、こんにちは。本日は、湯﨑知事のおかげでこのような素晴らしい両県の知事会議の機会をいただきました。本当に感謝申し上げたいと思います。また、田邉審議官、胡家課長をはじめ広島県の皆さま、さらには地元庄原、高野のほうから岡村さまや後藤施設長をはじめ、関係者の方にもお力添えいただきまして、いい機会をいただけたことをまずもって御礼を申し上げたいと思います。

先般、鳥取県の米子市におきまして子育て同盟の第 1 回のサミットを開催することができました。全国にその名がとどろいている育メン知事でいらっしゃいます湯﨑知事のイニシアチブ、そして私も一緒に、10 県の知事が集まりまして子育て同盟が動き始めました。小さな自治体同士の交わりかもしれませんけれども、大きく日本を変えていくムーブメントは、そういう現場から生まれるものだと思います。

今日はここ、ふるさと村高暮へやってきまして、本当に感銘を受けました。恐らく、ここは日本の大都市で流れている時間とは違った時間が流れているのだろうと思います。今日は空調のない施設だとあらかじめ随分驚かされて来たものですから、これは大変だと、どげな格好をしていこうかなと思いまして、多分、湯﨑知事だからポロシャツにチノパンだろうと相場を張ってやってきましたら、私一人取り残されてしまいました。こげなことになってしまいましたけれども。

そのようなことでありましたが、来てみると本当に涼しいですね。下界とは違った天上の国の趣がございます。ここここそ、日本のふるさとの原風景ではないかなと思いました。先ほどは高野の道の駅のほうに参りましたけれども、これからの日本の行方を占うかのような、実験的な挑戦でありまして、これもまた感動いたしました。

私、実は一つテーマを加えようというふうに申し上げたわけでありますが、今、里山資本主義という言葉が生まれ始めていまして、本がベストセラーになってきています。これは山口県出身の藻谷先生がとなえられて、NHK と一緒に本を出されたわけでありますけれども、庄原もその舞台になっているわけであります。

お金だけで幸せは測れないはずであります。お金で人間が食べていけるかといったらそんなことは決してない。私たちに必要なのは、水、食料、エネルギーである。こういう観

点に立てば、この高暮や高野のようなところが、これからの日本人の生きていく、そういう幸せを生み出す地ではないか。そんなように思えてなりません。こうやってベクトルを引っくり返していくことで、私たちは両県の対話の中から新しいふるさとの姿、それぞれの地域振興のあり方を導いていきたいと思います。

例えば、自転車を駆使してサイクリングで体を鍛えたり、また自然と共に生きていくライフスタイルを作っていこう。こういうムーブメントが、広島県がイニシアチブを取って進められていますが、先般、ジャイアントという会社が鳥取県のほうにやってこられました。こんなことで連携できるかもしれないなと思いました。

また、高野の道の駅のほうに参りますと、非常にかわいらしいキャラクターがございまして、「君のいる町」であるということでございます。そういうアニメとか漫画というのは世界中まで貫いていったり、聖地巡礼もあるわけですね。こんなことでも、実は鳥取県内でも今「Free!」という水泳のアニメが深夜に放映中でありますけども、その聖地になり始めていたり、「琴浦さん」という、これも同様のアニメでございますが、琴浦町という町が舞台でやっているものもございます。

つなげていくといろいろなことが見えてくる。今日、こうして松江道が通りました。いずれ尾道にこの道がつながっていきます。そうすると、今までとは違った地域のあり方、絆が生まれる瞬間がやってくるのだと思います。その先を読みながら、私たちはどういう地域振興ができるのか、ともに考えていければありがたいなと思います。さまざまなテーマがあろうかと思いますけれども、ぜひ湯﨑知事の強力なリーダーシップでこの中国地方を引っ張っていただければありがたいと思います。

実は、私たちは来週ふるさとテレビの収録兼インターネット放送で、５人の知事が上京することになっております。それに向けて広域連携、道州制ということが議論され始めましたが、広域連携についてどうやって戦略を練っていくのか。それも、今日広島県という有力な県と、私ども事務局を務めている鳥取県とで対話をしながら、方向性を見つけられればありがたいと思っております。

本当に今日は素晴らしいカンファレンスを設定していただきましたことを、まずもって御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【田邉審議官】ありがとうございました。

今、両知事にお配りしているのは、当地たかのリンゴジュースであります。１リットルに高野リンゴ６個の果汁を使ったストレートジュースであります。どうぞ冷たいうちにリンゴの味をしっかり堪能いただければと思います。ペットボトルも用意しておりますけれども、これはこの庄原市の一番南側、府中市に隣接する総領町に社会福祉法人がありまして、障がい者の方々がわき水を利用して生産されているペットボトルであります。これもぜひ飲んでいただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

３　意見交換

【田邉審議官】それでは、ただ今から次第に沿って議論していただきたいと思います。15時30分までの予定で両知事にお話を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

ここからの進行につきましては湯﨑知事にお任せしたいと思いますので、よろしくお願いします。

（１）中国地方における広域連携について

【湯﨑知事】次第の項目に従って進めさせていただきたいと思います。

まずは、「中国地域における広域連携について」でございます。農業大学校合同フォーラムについて、まず取り上げさせていただきたいと思います。

農業大学校の合同フォーラムというのは、平成22年度より検討を進めまして、農業派遣研修の相互受け入れの 5 県参加の規定などができるなど、広域連携の取り組みがだんだんと進んでいるところであります。これをさらに進めるために、今年の４月に開催されました中国地方知事会の広域連携検討会で本県から「農業高校・大学校合同フォーラム」と、「中国ブロック大学校教員連携研修会」につきまして、それぞれの取組へ中国５県に参加をご提案させていただきました。実は、昨日と一昨日、これが広島市で開催されまして、鳥取県からもたくさんの皆さま、30人近くご参加いただいたところであります。

今後はこの予算、あるいはカリキュラムの編成の調整もしながら、さまざまな連携を進めさせていただきたいと思っているんですが、特にこれまでは県外出身学生の受入であるとか、農家派遣研修の相互の受入、これを進めさせていただいているんですが、大学校間に集中講義の実施、また受け入れ、それから単位交換制度の導入について鳥取県と広島県で先行的に取り組ませていただきまして、成果が出ればさらに他県にも参加を呼び掛けていくというかたちでわれわれがリーダーシップを取って進めていってはどうかと思っております。

また、学生のニーズがいろいろと多様化しているといいますか、そういう現状がありますので、教職員間の連携とかあるいは情報交換が有効ではないかと思っておりまして、今回は教員連携研修会をやらせていただいているんですけれども、それをきちんと評価した上でまたさらなる連携あるいは情報交換について、新たな仕組みも検討させていただきたいと思っております。

【平井知事】湯﨑知事から建設的なご提案をいただきました。５月にこの中国地方の知事会議をやりまして、湯﨑知事はじめ各県知事が集まったんですけれども、そのときに道州制の議論は議論としてあるけれども、広域的な連携でできるテーマは積極的にやっていこうではないか。これで５つの県が合意して、今、具体的な中身を考えているところであります。

こうした農業の人材育成もそういう連携のテーマになると思うんですね。今の湯﨑知事のお話でございましたので、私どもも真剣に検討させていただいて、事務ベースでも話をさせていただいて、単位交換であるとか相互受入であるとか、あるいは合同研修ということもあるかもしれません。

さらに言えば、ここから近いところで岡山県の蒜山のほうに酪農大学校という中国５県で共同運用している研修施設もあります。このへんがまだ今ばらばらなんですね。それぞれに得意分野もありますし、そうした研修を受けてみたいという層もありましょうし、お互いに交流をするというのは、特に農業の担い手たらんとする人たちには勇気を与えることになると思うんです。

広島県もそうだと思いますが、今、若い方々で東京や大阪を離れて農業をしたいと考えられて、中山間地に入って来られる人が激増しているんです。増えているんです。それに対するキャパシティーをわれわれとしても受け皿を用意していかなければいけないわけであります。ただ、これを一つの県でやると効率が悪いことも多々ありますので、一緒になってやることで力が増しますし、若い人たちの交流の場が増えてくれば、大体つまずくことはいろいろあるわけです。近所付き合いも含めて家族のことだとか、そういう大学で教えないことなんかをお互いに教え合う。そういうペアカウンセリングのような役割を果たそうと思うと、横のネットワークをつくらなければいけないと思いますし、そういう意味でも農業大学校の連携というのは面白いのではないかなと思います。

ぜひ具体のカリキュラムをお互いに突き合わせてみて、単位交換であるとか連携のあり方を探らせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（２）地方税財源について

【湯﨑知事】ありがとうございます。

続きまして、「地方交付税について」少し取り上げさせていただきたいと思います。

地方財政も非常に財源不足状態というのはご承知のとおり続いているわけでありまして、多額の臨財債という実質的な赤字の債券、これは交付税が足りないというところで国が地方に発行させているものですけども、こういうものも発行したりしておりまして、こういった状況を改善していくためには、やはり交付税の法定率を引き上げるといったような抜本的な対策が急務であると思っております。

一方で、政府にいわゆる骨太の方針がございます。これは経済財政諮問会議で決定していくことになると思いますが、その中で地方は経済危機の影響を引き続き受けていると言いながらも、地方、国を通じたということで、地方も歳出抑制をしてと言っております。ただ、一方でわれわれがやっている事務というものの大半は法律で規定されている。つまり法律でこういうことをやりなさいと。昔であれば、機関委任事務といった名称で、比較的国の事務であるということが分かりやすかったんですが、それが名前も変わったものですから、やや分かりにくくなっておりますけれども、法律によって地方公共団体が行わな

ければならないとされている事務がたくさんある。そういう事務を見直すことなく、一方的に財源だけ削減するということは、地方財政というよりも本当の意味での地方の固有の事務、あるいは地方の固有の政策というものを破壊していくものだと思っております。

そういう意味で、まさに交付税率の引き上げなど一般財源総額を確保する、それを実現していくことが不可欠だと思いますが、それまでは、今、歳出特別枠だとか特別加算というような言い方で、これも特別にあげているんだというイメージづくりに国は成功していると思うんですけども、これは特別でも何でもなくて、本当に財源が足りてないところを、本来は手当するべきものを手当してないというものでありますので、これを維持していくことが必要ではないかと思っております。

一方で、これもまた最近の議論におきましては、地方交付税の一部で頑張っている地方にこの税を配付するんだというようなことを言っておりまして、これはまず総額を確保した上で、頑張っている地方に追加的に配付するというのであればいいんですけども、確保をしないで、足りていないのにその一部を頑張っているところにというのはとんでもないことではないかと思っておりまして、まさに先ほど申し上げたような歳出特別枠だとか特別加算といったようなものを一般行政措置に組み入れるといったようなかたちで、まずはやはり必要な一般財源の確保を優先するべきではないかなというふうに思っております。

中国知事会の提案活動をはじめとして、いろいろな機会でこれは国民に対して訴えていきたいと思っておりますので、ぜひ平井知事にもご協力をお願いしたいと思っております。

【平井知事】この分野は、湯﨑知事が中国地方知事会の中でも声を大にしておっしゃっておられますし、全国知事会でも湯﨑知事が資料を配りながら仲間の同僚知事に説いておられるところでございます。

全く同感です。これから問題になるのは、予算編成が本格化するときにその総額をどうするかということで、いろいろな答弁や議論が展開されると思います。去年は、私たちは打ち切られたのは、今回大騒動になって各県が給与抑制をやりましたけれども、国の給与は下げたのだから地方も下げるべしと。ついては交付税を減らすと、そういうことに出てきて、それになかなか抗しきれずに総額が減ってしまったということです。

今回も特例加算や歳出特別枠というものは撤廃をして、平時モードへ戻そうということですが、われわれがだまされてはいけないのは、実は平時モード、緊急モードという以前に、もともと三位一体改革に伴う地財ショックというのがあったんです。そこでごっそり一般財源は減らされているわけです。

その後、リーマンショック等がございまして、一部そういうものが戻ってきて少しは一息つけるかなというのが最近の地方財政の個別の団体の事情だったと思うのですが、それをすべてどこかにうっちゃりまして、平時モードに戻すのだからなくせばいいと、こんな議論になっているわけです。

もし、この歳出特別枠といわれる特例加算、これをなくしますと、鳥取県の場合、試算

すると 83～124 億円ぐらい、大体地方交付税総額の県の受領額の 1 割ないし 1 割近くがなくなってしまうということでありまして、これはとても財政的なインパクトが強いです。ですから、多分、これをやられますとなかなか大変だということです。

先般、国のほうが今年の概算要求に向けた予算フレームを示しました。その中で交付税については、一応通常の政策経費だとか、一般経費とは別枠扱いにしてあるわけですが、これからどういうふうに、今、湯﨑知事がおっしゃるように頑張る地方を応援するという名の下に手が加えられるか分からないわけでありまして、これは十分警戒してかからないといけないと思います。

地方自治の本旨、根幹に関わることでありますので、ぜひ湯﨑知事と一緒にわれわれ鳥取県でも論陣を張って、中国地方知事会だとか全国知事会だとか、あるいは若手の知事同士で声を上げていきたいと思います。

【湯﨑知事】ありがとうございます。ここにちょっとした数字があるんですけれど、広島県の場合、広島県独自の政策的、つまり基本的な義務的経費等を除いて広島県で自由に、例えばこの中にはいわゆる県単以外の公共事業費の県負担分が含まれておりますし、あるいは私立高校の補助金というのも含まれていますけれども、そういう経費を全部込みで平成 5 年には広島県で 1,763 億円あったんです。ところが、今はこれがいわゆる義務的経費、つまり国が法律で地方が負担するということを決めているものが大きく増えていまして、その結果、県の独自の政策的経費は 964 億円に減っているんです。

つまり、この国の部分の歳出削減という部分の見直しなしに財源だけカットされると、どこを切らなければいけないかというと、単純にわれわれが独自でまさに地方としての色を出している部分の政策的経費。これが、例えば 964 億円ですけれども、今の特別加算枠等々を広島県が 100 億ぐらいあるんですが、なくなると約 1 割なくなってしまうということになりまして、しかも公共事業を全くやめるとか、公立高校を補助するのをやめるというのも非常に難しいですから、そうするともう実際半分ぐらいしかないわけで、500 億円ぐらいのうちから 100 億円をなくす。そうすると、もう子育て政策とか何だとかというのは全然できなくなってしまうんです。

だから本当にそういう状況にあるんだということを、やはりよく国会議員にも認識してもらわないといけませんし、やはり財源の問題を考えるときには仕事もセットで考える。今、われわれが頑張っていることを、地域の独自性を出すということを殺すようなもので、本当にしてはいけないということを切にアピールしていきたいと思います。平井知事のご協力もいただけるということですので、ぜひ積極的にやらせていただきたいと思います。

【平井知事】今の政策経費が半減しているという、ショッキングなここ 20 年ぐらいの状況が示されました。鳥取県も同様の状況がございまして、だからこそ実は行財政のスリム化を図ってまいりました。そういう中で経常経費比率だとか、公債費負担比率だとか、全国

的にも上位のほうにここ５年ぐらいで転換することができたんですけれども、それでも今回の交付税カットが 80 億とか 120 億とか、そういうオーダーになってきますととても歯が立たないということになります。

政策的経費のほうは大体一般財源でやると、投資的経費だとか義務的経費もそうでありますけれども、福祉や教育と、国のほうの負担金なども入って、ある程度ふくらし粉が入りながら執行できるわけでありますけれども、一般財源をごっそり切られるというのは、それは特に地方の自由度の高い、自治的な行政に直撃しますので、その危機感を持って当たってまいりたいと思います。

（３）高速道路のネットワーク整備促進について

【湯﨑知事】ありがとうございました。

次は「高速道路ネットワークについて」でございまして、まずは江府三次道路の現状と鍵掛道路の整備促進について、平井知事からお願いいたします。

【平井知事】高速道路の関係でありますが、今回、この新しい松江道路と呼ばれます庄原のほうから出雲へと抜けていく道路ができて、大半の地域へのインパクトが高くなっています。これができたことでこの陰陽直結といいますか、中国地方の一体化に大きく前進したわけでありますし、特にこういう中山間地域の道の駅たかのに象徴されるようなにぎわいが生まれるきっかけにもなりました。

今までは私たちが交流ができていないために売り残している商品がいっぱいあるような感じだった気がしますが、それが今回、これで変わってきたということになりました。実は、この道路はこの後、尾道のほうに伸びていく松江尾道道路ということになりますけれども、これもいずれ１～２年のうちに最終的にはつながってくるということになります。

そうなりますと、中国山地のミッシングリンクの大きく抜けている部分の一つが、こちらの三次のほうから大山のほうへ真っすぐ、ほぼ直線に行く道路、江府三次道路と言っている地域高規格道路がございます。これがまだ計画段階が多うございまして、90 キロぐらいこの間があるわけですが、その中の工事個所が限られている。現在、開通しているのは広島県側の３キロと鳥取県側の３キロ、ぽつぽつとまるで縫い目のようなかたちでちょっとできているということです。

一番の難所がこの鍵掛道路の所でありまして、この鍵掛峠道路のところの 12 キロ。これが抜けますと、ほぼ全体としては平らな道にだいぶ変わってきます。今、実は一般の地道がありますけれども、かなりくねくねとした曲がった道で、日南町という隣町から三次のほうへ向かって下りてくると、こういうようなことになります。これが直線的なトンネル等で結ばれることになりますと、この峠の難所が解消されますので、これだけでだいぶ交通の結節性がよくなります。この地域から鳥取県の海岸線のほうに向けて、あるいは大山に向けて行くときに、これは短絡道路でありますので、非常に早く抜けられるようになる

と思います。

そして、その向こう側に米子道という道路が通っていまして、そうした意味での高速道路のネットワークが接続してくるということになります。そういうことから、尾道に行く道路が終わった後の次のテーマとして、ぜひ両県でこの鍵掛峠道路、国道 183 号のバイパス線になりますが、地域高規格道路として整備していく。これを考えてはいかがかなと思います。

ここ、高野もそうでありますけれども、豪雪地帯でございまして、これの中で交通を確保していくのは冬季には結構大変な労力がかかります。また、雪が積もってしまって土砂崩れも含めて万が一通行止めがありますと、たちまち大動脈が切れてしまうことになります。そういう意味で考えますと、こういう道路を通しておく意味は非常にあるのではないかなと思います。

10 年ぐらい前は、今の庄原市の地域と鳥取県の西部とは交流ももっと深かったように思うんです。当時は県境サミットとかもありまして、市町村同士がアライアンスを組みまして、岡山県も含めて島根県も含めて、あるいは横田とかああいうところも含めてやっていたんですが、それぞれに合併したものですから、今ちょっと絆が少し弱まりかけています。

今回、こういう松江道路ができてはっきりしましたけれども、やっぱり県境を考えずにそれを結んでいくことの値打ちは、今、非常に壁のようにあるところが払われることになりますので、経済効果も地域活性化のインパクトも強いということがあろうかと思います。ぜひ湯﨑知事のご理解とご協力をいただければと思います。

【湯﨑知事】ありがとうございました。今、鍵掛峠道路につきましては着手が始まっているということですけれども、今年度は、広島県側は用地買収と地籍調査、また設計が行われる予定になっております。この整備が着実にされるように協力をして、国に働きかけてまいりたいと思います。

【平井知事】ありがとうございます。それ以外にも、実は中国地方にミッシングリンクがありまして、ここ松江道が通った向こう側、海岸線の道路もまだまだつながっていない所があります。先般、津和野、萩、高津地区など非常に厳しい豪雨災害がございました。そのときに道路が寸断されてしまうということが発生するわけです。これは山陰のほうでは日常茶飯事でございます。そういう意味で、いざ災害のときに人と物の流れを担保する道路、いわゆる国土強靭化に資するような道路になりますので、これが通ることで山陽側、縦貫道、そしてこの縦線であります尾道から松江に抜ける道路など、こうしたものを組み合わせていくことで初めて中国地方の一体化が図れると思います。ぜひその意味でもご支援とご理解を賜りたいと思います。

【湯﨑知事】高速道路は、まさに災害時の重要な物資あるいは救急輸送に重要な道路であ

ると思っておりますけれども、同時に今、実はさまざまなことが言われながらも輸送、人も物も車に依存しているのが現代の社会でありまして、高速道路をきちんと整備していくのは、いわば国民生活の最低限保障されるべき条件の一つと言ってもいいぐらいではないかと思っております。

そういう意味で、まだ中国地方には山陰地域においてミッシングリンクが多く残っているのは、これは極めて由々しき事態であるとわれわれも思っております。災害時のみならず日常の物流や人の流れにおいても、大変不利な条件を強いられているということです。このミッシングリンクはまさに早期に解消していく必要があると広島県も思っておりますので、私自身も必ず国土交通省に行ったときには、誰にでもミッシングリンクの解消を早くしてもらいたいというのを言っておりますけれども、これをまた中国地方知事会、あるいは両県で連携しながら国に対してさらに働きかけを続けてまいりたいと思います。

（4）子育て支援施策の充実について

【湯﨑知事】続きまして「子育て支援施策の充実」について取り上げたいと思います。

先般から、平井知事に本当に素晴らしいリーダーシップを発揮していただきまして、子育て同盟、子育てサミットが実現してきたところでございますけれども、広島県としては子育て同盟の県内企業版として育メン企業同盟を発足させて、企業自らが男性、あるいは企業内の意識改革を進めることによって子育てしやすい社会の実現につなげていきたいと思っております。

これは、一つには先ほど平井知事にもおっしゃっていただきましたけれども、育児休業宣言を私がしたことがきっかけになりまして、男性の育児休暇の取得率が大幅にアップしました。全国平均より下だったのが 4.6 に激増したわけですけれども、ただこれはまたここでちょっと下がってしまったようなかたちになっていまして、頭打ちにもなっております。

行動すれば成果につながると、つまり意識改革、施策も合わせてやりましたけれど、一番効果が大きかったのは意識改革だと思っていまして、それが進むと大きく変化するということがこれで分かったかなとも思っているわけであります。

この育メン企業同盟は、育メンを普及、啓発するために自治体と協働して活動する意欲がある企業、また育児休暇の取得、推進に積極的に取り組んでいる自治体でタッグを組みまして、当初は 10 自治体及び企業という程度からスタートしていければと思っておりますが、男性あるいは企業の意識改革を推進する取組をこれにおいて進めたいと思っております。

これをだんだんと企業数であるとか、あるいは自治体の数、そしてまた活動の内容も広げていくことによって、順次実質的に、ただ参加するというだけではなくて実質的に意識改革を内部から進めていきたいと思っております。そのために各企業において、例えば男性の育児休業の取得率の目標を設定していただくという案とか、あるいは県を越えてさらにそれを広げていくというようなかたちで、全国的にこれを進めていくと、意識改革を進

めていくことができるのではないかなと思っておりますので、ぜひ趣旨にご賛同いただいて、今後も連携を進めさせていただければと思っております。

また、さらに今般発足いたしました10県による育メン同盟についても、さらに子育て支援、施策を進めて、協働で進めていければ素晴らしいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

【平井知事】今、湯﨑知事から貴重なご提案がございました。私ども 10 県の知事が先般、米子に集まりました。これがそのときの絵でございます。「子育て政策待ったなし、今でしょ」と今ふうにキャッチフレーズを考えてやったわけでございますが、これを結成して皆でしたわけでございます。

この中で国への政策提言を取りまとめたり、またわれわれとしてイニシアチブを取ってウェブサイトを共通でつくろうではないかとか、これから育児等で取り組んでいくさまざまな協働施策、例えば婚活とかそれも大事だという話が、若い者同士でありますので結構出まして、そんなことなどもやろうではないかとこんなことで話が出てきたわけであります。

今ご提案のあった企業同盟、これも非常に面白い着想でありまして、ぜひ鳥取県内にもそのエッジを広げていただきまして、われわれのほうにウィングを向けてもらえればありがたいなと思います。またこれからさらに具体的な活動等が分かってくると思うので、そのときに私どものほうからも同様の組織を立ち上げたり、同様の運動を起こしていくのがいいかなと思います。今のお話を聞くと10の企業ぐらいで始めると。

【湯﨑知事】小さく生んで大きく育てようと。

【平井知事】そういう意味ではモデル的な企業を選抜をするということですか。選抜をするというか、名乗ってもらって。

【湯﨑知事】もちろん、手を上げていただくということですけれども、取りあえず名前を連ねるだけだとあまり意味がないので、本当にやってくれる企業を募集して、その中で一緒に知恵の交換をしながら進めることができたらいいのではないかなと。

【平井知事】それは考えられると思いますので、われわれでも同じようなスタイルで、いずれは中国地方で始まった育メン企業同盟が全国へ展開していくというような流れをつくっていければと思いますので、よく情報交換させていただいてご指導いただければと思います。

【湯﨑知事】ありがとうございます。協働して輪が広がっていくと、当然に例えば学生が

企業を選択するようなときにも子育てに優しいとか、これは実は要素の一つに今なりつつありますし、子育てに優しいということは従業員に優しい企業ですから、非常に評価されると思うんです。そういう効果を含めて輪が広がっていくと、より東京なり大阪なりの学生を地域で引っ張ってくるというような効果が考えられますので、ぜひ協力をお願いしたいと思います。

（５）地域包括ケアシステムの構築

【湯﨑知事】続きましては「地域包括ケアシステムについて」議論させていただければと思います。

今、非常に高齢化が進む中でいわゆる団塊の世代が遂に高齢者の世代に入ってきて、さらにこれから、平成 37 年ぐらいに団塊の世代が 75 歳を超えるというような非常に大変な時期を迎えております。一人暮らしの高齢者であるとか、あるいはここもそうですけれども、地域においてお医者さまが不足するといったような事態も、今発現しているわけでございまして、そういう中で高齢者が住みなれた地域でサービスを受けながら安心して暮らしていくことができることが重要であって、それを支えるのが地域包括ケアシステムであると思っております。

本県におきましては、御調（みつぎ）というところで初めてこのシステムの理念が考えられて始まったところでありまして、いわゆる先進的な部分があるんですが、一方で全県的に見ますと、まだまだこの取組が不十分なところが多くございまして、全体に地域包括ケアシステムを広めていかなければいけないと思っております。

実はそのために広島県が主体となりまして、広島県地域包括ケア推進センターというものを設立しております。これを通じて医療面からのアプローチとして地域包括ケアシステムを支えていくことに取り組んでおります。まず、これは医療を中心として考えていますので、在宅医療の中心となる医師をコミュニケーションリーダー、誰かリーダーシップを取る人がいないと難しいので、これを育成しております。また、地域包括ケアシステムですから医師だけではなくて、薬剤師であるとか、介護師であるとか、もちろん看護師であるとか多職種の人が協働しなければなりません。それを横断的にサポートできる拠点を整備しております。

これがリーダー育成で、これは今の拠点の設立事業です。それから、この地域包括ケアシステムにおいては、市町村が、広島県の場合には村がなくなっているんですけども、この取組はここが主体になりますので、その取組を促進するために、今年度から地域包括ケアシステムの構築に係るモデル的な事業、モデル的な取組を助成したり、あるいはいろいろな課題がそれぞれ地域にあるので、それを解消していくためのロードマップを作っていただいて、それを支援したり、あるいは介護給付費を削減していく。

ただ減らすというだけだと認定しませんということが起きるので、改善と言っていますけれども、それを図った市町にインセンティブを付与したり、こちらの事業になるんです

けれども、こういったことを進めておりますし、医療資源の適正配置ということも重要になりますので、実はこのレセプト情報を分析するために分析システムの整備だとか、また医療連携情報ネットワーク、これによって電子カルテ等が交換できる、あるいは参照できるというシステムですが、こういったものを施策として進めているところであります。

実は、中国地方においては地域医療施策について担当課長レベルで既にいろいろな情報交換をさせていただいておりますけれども、地域包括ケアシステム、さらには介護も含めた仕組みになってきますので、これについても共同の施策の実施であるとか、情報交換ができたら素晴らしいのではないかなと思っております。

具体的には、例えば先ほども申し上げたようなレセプト情報分析、これを協働で行う。これによって当然データ数が増えるというメリットもありますし、また地域によって特性が表れてくるかもしれない。そういったことが改善に応用できるといったようなことも考えられるのではないかと思っておりますので、まずそれを協働で進めていくであるとか、また、鳥取県においても医療界のネットワーク化を進めていらっしゃると思いますけれども、われわれも地域医療再生計画の中で進めているんですが、これを５県の中で連携していく。

例えば、特に県境地域において、住んでいる所と拠点病院が別々ということもあります。この場合は在宅医療を提供するような、かかりつけ医さんは地元にいて、他県の拠点病院と連携をするというようなこともあると思いますので、そういった連携を中心に情報交換、あるいは施策の検討というのを進めてはどうかと思っておりますので、ご検討をお願いしたいと思います。

【平井知事】今、非常にタイムリーな研究、そして実践活動だと思います。今、わが国が向き合っているのは社会保障の経費全体がどんどん高齢化で膨らんでくる。それに対して消費税を上げるなどの負担の動向ということが当然片方にありますが、それだけではなくてリーズナブルにその費用を抑制していくということも同時に考えなければならないところにやってまいりました。

そういうわけで、私たちは知恵を出さなければいけない時期だと思います。私たちのところでできることというのは、実は多数あるんです。例えば、長野県でいえば、結構健康づくりを一生懸命やるということの中から、医療費が少ないとか、さらに介護の費用が少ないということがあります。鳥取県は一人当たりの医療費水準でいきますと全国平均ぐらいなんですけど、これは結構地域性があって、広島県はちょっと高めに出ていますよね。

介護については、逆に鳥取県はちょっと高めに出ていまして、介護費用は一人当たりでいきますと全国よりも随分高いところに来ております。ただ、トータルでものを考えなければいけないわけですよね。この庄原の隣町で日南町という町がありまして、日南病院という病院があります。恐らく県境をまたいでこちらのほうからも受診に来られる方がいらっしゃるところです。もともと赤字の病院で悩んでいたんです。今は高見先生とかそうい

う経営者、院長さんのいろいろな努力がありまして、考え方を変えたわけです。

病院というのは地域の中にあっていろいろな役割を果たしている。ベッドに入院してもらうということだけではなくて、これは逆説的なんですけども、むしろ家におってもらって家を病院のベッドとして考える。だから、往診を多用するわけです。地域医療をやって、それから医療の分野だけでは手に負えないわけでありますので、福祉のほうとの結節をつくりまして、福祉に連絡をしてトータルでやろうというような考え方でやったわけです。

今は経営的には病院自体非常によくなって、それから、全国からも注目をされるやり方になっていまして、先ほどの御調の話と多分、一致するんじゃないかなと、方向性は同じところを向いているのではないかなと思いました。

そういう地域モデルは中山間地でも十分できるモデルでありまして、特に子どもだとか高齢者だとか障がい者だとか、そうしたものをすべてトータルでケアするシステムも考え得るのではないかと思います。

鳥取県としては「支え愛」、愛情の愛と書いて「支え愛」という運動を今、広め始めておりまして、保育所と高齢者のケア等を同居させるような共生ホームのようなことまで手を貸してやっていこうとしております。正直申し上げて、こういう中山間地のほうに来ますと子どもの数が少ない。子どもがいることでお年寄りの介護予防になったりします。

また、障がい者はもっと深刻でして、障がい者のケアをしようと思いますと、人口が少ないところほど障がい者というのはある意味確率分散的に出てくるわけですね。ですから、山の中だとどうしても障がい者の数が少ないものですから、障がい者福祉のケアができなくなってしまうというのも極端なことを言うと出てくるわけです。ですから、福祉をトータルで考える。それ以上に結びつけて考えるというところに行きついていかないと、多分、わが国の社会保障制度の未来というのは描けないのではないかなと思います。

そういう意味で、今、湯﨑知事がおっしゃったことをずっと聞いておりましたけれども、ご慧眼だと思いますので、一緒にそういう地域モデル、社会保障モデルを構築できたらいいなと思います。お互い生きたモデルがたくさんあると思います。

また、レセプトの活用等も広島県は進んでいるのではないかと思います。ぜひこういうようなことで、データ的に組み合わせてやるとこういう分析ができるというお話をいただければ、われわれも現場レベルでまずよく検討させていただきたいと思います。

【湯﨑知事】ありがとうございます。それでは、まず、先ほど申し上げたようなことを中心にしながら、あるいは念頭に置きながら、どんなことができるかというところの意見交換、情報交換からまずさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（６）里山資本主義

【湯﨑知事】続きまして、先ほど触れていただきました「里山資本主義」について平井知事のほうからお願いしたいと思います。

【平井知事】ちょっと無理を申し上げてお話しさせていただくことをお許しいただきたいと思います。

藻谷浩介先生が今月初めに米子のほうに来られまして、それでお話をさせていただきました。ちょうど時を同じくして、新しいオーストリア大使に、前の内閣官房副長官、竹歳さんという方が行かれます。壮行会をやっているときにちょうど藻谷さんと同じに出会ったりして、いろいろと話が盛り上がったんです。

やっぱり、これからのわが国の生き方を考えるときに、ここ庄原のような生き方というのを、もっともっとわれわれが中核になって広めていく時期かなと思います。正直申し上げて藻谷さんというのは、結構そういうユニークな経済モデルをつくられて、いろいろ反論も多く発生するんですよ。そういうタイプの学者さんなのですが、「里山資本主義」というのは、水、食料、エネルギーを考えれば、身近なところにそういう物が全部あるのが里山なんです。

この庄原の中の総領の方で和田さんという方が本の中に取り上げられていて、山を使って薪ストーブ、エコストーブというのを立ち上げられるということを始められました。また、銘建さんがこの高野の道の駅のあの梁を、ロングビームを作られたということでありますが、あの銘建工業も集成材を鉄筋コンクリートを作るかのごとく、三階建ての家が建つような、そういう材を作ろうと動き始めていまして、これ、実はこの辺みんなが結構協力して、多分、広島県もそうだと思うのですが、私ども鳥取県がレングスという協同組合がパートナーで協力をしていた。

また、最近、智頭町という所が話題になっておりますのは、「森のようちえん」ということを始めたんです。園舎がない幼稚園を森の中でやる。先般、子育て同盟でも紹介させていただきましたが、今は東日本大震災以降、価値観が変わってきて、園舎がない森の中の幼稚園にあこがれて引っ越してくる人たちが、東京とか大阪とか、ついこの間は海外からも、今、NHK の BS とかで多分海外に届いているんだと思いますが、そういう方も出てまいりました。

だいぶ世の中が変わってきて、「里山資本主義」というイメージでわれわれはとらえ直してもいいのではないかと思います。例えば、木質バイオマス発電。これもオーストリアが先進地でありまして、そういうことは現にこの界隈でも各地で始まってきております。そうなると、山というのは値打ちが出てくることになりますし、若い人たちの雇用の吸収力にも果たすわけであります。

ぜひ中国地方、結構山深い地域が多いですけれども、もう一度里山というところに光を当てて、われわれがリーダーシップを取っていける分野ではないかなと思いますので、もう経済産業といえば全国で湯﨑さんしかいませんので、ぜひ湯﨑さんに協力いただいてこの「里山資本主義」を、岡山も入ってもいいかなと思いますが、取り上げられた舞台で「里山資本主義」のサミットをやったり、あるいはダボス会議をやったりしてもいいのではな

いかなと思います。
　そうやって新しいムーブメントを起こすような施策サポート、例えば今度私どもでも、バイオマス発電のプラントが立ち上がろうとしていまして、こういうところに対する助成制度なども中国電力さんにご協力いただきながら始めたりしているのですが、そんなようなことをいろいろと広島県と協力してやっていければなと思っております。

【湯﨑知事】ありがとうございます。この「里山資本主義」というのは、まだ概念的には柔らかいものだと思うんですけれども、幾つか事例として取り上げられていたものとしては、広島県でも先ほどのエコストーブであるとか、そして岡山県の真庭市における木質バイオマスというか木の循環システム、あるいは山口県の周防大島において地域の果物を活用してジャムにして販売している。このジャム屋さんに、私、先般行ってきたんですけれども、大変な人気で、本当にいっぱい入り切らないぐらいお客さんがいらっしゃって、一つ一つのジャムはすごく高いんですけれど、それが飛ぶように売れるという状況もございました。
　また、広島県の北広島町で、これは広島県も関わって進めているところですけれども、「せどやま再生事業」ということをやっていまして、これも地域で木を切ってきてもらってそれを地域通貨に変えて地域のお店で使える。従来は木というのはどうもやっぱりスギとかヒノキとかというイメージが多いんですが、これは広葉樹を切ってもらいまして、そのことによってまさに背戸山、背戸山というのは裏の山、背戸の山という背戸山なんですけども、それの手入れをしていこうということです。時々、皆さんご存じないのでものすごい高級な木が持ち込まれたりするとか、それもあまり分からず切ってしまったりするとかいろいろなことも起きているみたいですけれど、ということもやっております。
　あるいは、世羅町というところで「おへそカフェ」というところがありまして、これはお店、これも全く何もないところにぽつねんとカフェがありまして、このカフェの前に、前といってもカフェはちょっと高い所にありまして、よくある田舎のパターンですけど、その下のほう、前の麦畑で麦を作って、それをパンにしたり、ピザにしたりして提供しているというようなことがあって、スペイン人のご主人と日本人の地元出身の奥さんがやっていらっしゃるんですけど、昔は高野が一番遠かったんですけど、いまや世羅のその辺が広島市から一番遠い所ぐらいになって、女性がたくさんやってくる。鈴なりになってカフェの前で待っているというようなことがあるんです。
　そういうかたちで地域の資源をいかに活用するか。循環させると同時に、それを都市であるとかの皆さんに、本当に高い付加価値として提供していくということによって地域を発していくというようなことが、本当に至るところで起きているのではないかと思います。それぞれの地域が、特に中山間地域であるとか、あるいは過疎地域といわれるようなところが、都会と同じことをするのではなくて、それぞれの資源をできるかたちで活用しながら違った価値を提供するということによって、そこにおける生活を維持していくというこ

とがあるのではないかなと思います。

本当にそういうところの皆さん、少しずつつながっている部分はあるんですけれども、まだまだ独立した努力というような側面もあると思いますし、それぞれの県では数はやっぱりまだまだ少ないので、これも連携させながら、情報交換をしながら進めていけば、おっしゃるように効果も出てくる可能性がありますので、ぜひそれは一緒に考えていければなと思います。

「その他」ですね。「その他」にもいろいろあるんですけど、あまり時間を使うとあれなのでこのぐらいにしておきます。

【平井知事】ありがとうございました。今もお話にありましたように、いろいろなポテンシャルが実は中国山地の中にあふれていると思います。今日も高野の道の駅に来ましたら、やっぱりここは違うなと。いろいろな品ぞろえもあって、それをまた地場で採れた食べものと直結しているわけでありますし、使われているのは木であり、また雪であり、そうした地元の物ばかりでございます。

こうやって生活を組み換えていったら、ひょっとしてここは世界の中心というか日本の中心になるのではないかなというふうにも思えるわけです。考えてみたら、こういう庄原のような所は「里山資本主義」という新しい世界の中で大舞台のような所ではないかなと思いました。よく見たら、フルーツのジュースなりジェラートなんか出しているところに「高野」と書いてありまして、新宿かなと思いました。そういうような、非常にいい所だなと思いました。

見方が今、だいぶ変わってきたと思いますので、ぜひご指導いただければと思います。そういうものをつなげて周遊性を高めていく。楽しい旅を提案する。そういうことも新しい道路でできるようになってきたと思うんです。今日も「君のいる町」というモチーフでお話を伺ってきて、なかなか素敵だなと思いました。こういうスポットがこの界隈にたくさんあるんですね。それをつなげていくと、また面白いのかなと思います。

道の駅たかのは大したもので、ちゃんと「君のいる町」の単行本が全冊並べてあって、全部、開架でありました。

そういうアニメとか花もそうであります。こうしたテーマでつなぎ合わせていくことをぜひ広島県の湯﨑知事にもご賛同いただいて、ポテンシャルを広げていければなと思います。

（７）観光連携の推進

【平井知事】その中でもう一つ提案させていただきたいと思いますのは、スポーツとかエコ。スポーツツーリズムとかエコツーリズムといわれるようなものであります。サイクリングロードとして、しまなみ海道は世界に通用する素晴らしいサイクリングコースだということで知られるようになりました。

考えてみますと、この界隈にはそういうところもまだございます。実は、人口が増えているんですね、世界中で言いますと。特にここから近いアジア諸国におきまして、こういうスポーツを思い切り美しい環境の中でやれるところは、そう探してもない。例えば私たちが中国に自転車をこぎに行こうと思うだろうか。同じことを台湾とか香港の人も思うわけです。彼らはここに来てスポーツをやりたいと、日本を選ぶようになってくる。

そんな意味でいきますと、ここはそのメッカでありまして、大山の周りを回るようなツール・ド・大山というコースが今でも設定され、大会も開かれています。さらに中海という汽水湖を巡る、そういう旅もサイクリングでということになります。いずれジャイアントのような自転車会社とタイアップをして、ツール・ド・ジャパンを広島県を中心にして愛媛県だとか鳥取県だとか、そういった賛同をする近隣の地域と合わせてツール・ド・ジャパンということを打ち出して、世界が喜ぶこともあっていいのではないかと思います。サイクリングと言えば湯﨑知事だということもございますので、ぜひ湯﨑知事のご理解とご賛同をいただきますよう、お願い申し上げたいと思います。

【湯﨑知事】このコースは本当に素晴らしいなと思うんです。ちょうど皆生温泉でつながっていて、ぐるっと回って皆生温泉で汗を流して、またぐるっと回って戻ってくるという本当にサイクリストとしては最高の環境かなというふうに思います。

実は、このサイクリングというのはおっしゃっていただいたように世界的に人口が増えているわけでありますけれども、やはりこれの重要な提供地としてのポイントというのは、まず自然が豊かであるということです。自然の中を走る。自然をエンジョイしながら走るということは非常に大きな要素であります。

もう一つは、車がたくさん走っている所を走るのはつらいわけです。危険ですし、車が少ない所のほうが走りやすい。今、まさに地方においては、特に人口が少ない地域というのは自然が豊かである。そして車が少ない。というのはもうサイクリングにぴったりであるということで、まさにこういった地域であると。若干、米子の辺は少し人は多くいらっしゃるかもしれない。この辺はもう大変素晴らしい所で。

しまなみ海道を、パネルありますけども、これももちろん橋で渡れるということで人気を博しているのですが、実はサイクリストにとってはそれだけではなくて、非常に車が少ないというのが大きなひきつける要素の一つです。信号が少ないわけで止まらなくていいということも含めて、非常に走りやすいということがあります。

今、広島県、そして愛媛県では協力してこういうサイクリングのコースに線を引きまして、新しい道路とかサイクリングパスを作るのは非常にインフラ投資が必要になってきますので、道に線を引いて、ここを自転車で走りますよというのをドライバーに注意をうながす。同時に、サイクリストにとってはそれをたどっていけば道に迷うことなく目的地に着けるということがございます。途中、途中にはいろいろなオアシスを整備したり、あるいはスタンドを整備したり、あるいはターミナルのようなものを作ったり、あるいはこう

いったグレーチングという、時々あったりするんですけれども、橋の継ぎ目が伸縮のために溝ができてしまう、こういうのがサイクリストにとっては非常に危険なので、そういうものを平らにするようなことをやっています。あるいはこういったサイン、こういう整備をいたしまして、サイクリストが走りやすい道の実現をやっています。

実はこれを今、国に対してこういった整備を進めていってナショナルサイクリングロードにしようではないかと提案していまして、われわれとしては、ぜひ国にも整備費を出していただいて、地域と国が協働でこのサイクリングロードを整備したいということを提案しております。ぜひ鳥取県の先ほどのコースも、こういった整備の方法をご参考にしていただきながら整備を進めていただいて、われわれはナショナルサイクリングロード１号を愛媛県と協力して進めたいと思いますけど、第２号、第３号というかたちで進めていただければ素晴らしいのではないかなと思いますし、最終的にはこのしまなみからずっと横断をしてこの地域につながっていくという長いサイクリングルートを整備して、そしてまさにツール・ド・ジャパンではありませんが、大きなサイクリングエリアに発展させていければ素晴らしいのではないかなと思います。

【平井知事】実際にこのコース、大山ルートについてはこれと同じように路面表示ができております。今、こちらにも、明日、また溝口知事と話し合うんですけれども、こちらにも同じようなことをやろうと考えている最中です。いずれ江府三次線がつながってくるということがあったりしますと、ちょうどここともルート接続が尾道との間でもできてくるわけでありまして、そこを何泊かしながら走ってもらうツアーもあっていいのではないかなと思います。

今、実は船でここに韓国のお客さんが来て、そのお客さんが結構多いんですね。ここに泊まられまして、それでこれを上がれるというのが当たり前のように実は入ってくるようになっています。時代が変わってきたので、ぜひ自転車のメッカとしてこの中国地方を位置付けていただけるようになればありがたいなと思います。

【湯﨑知事】ぜひ、ぜひ、協力して広域サイクリングパラダイスに中国地方をしていければなと思います。

【平井知事】そういうスポーツと関連してエコツアー、あるいはグリーンツーリズムを広げていきたいと思いますが、今年、実は鳥取県が全国植樹祭をホストしまして、この後、９月 21 日から 11 月 10 日まで全国都市緑化フェア、これは「花と緑のオアシス 2013 in とっとり」ということなんですけども、広島市のほうからも参加されまして、平和をモチーフにしたお庭ができることになっています。白い玉砂利のような砂利と、白いお花でハトをあしらいまして、それに花々をあしらって平和を感じさせるようなテーマゾーンを作ら

れるということです。

ぜひ広島県の皆さんは近いですので、こちらのほうにイベントの時間などもございますし、来客も30万とかそういう目標数で今、前売り券もできておりますので、菓子博のように展示をしていただいたりということもあればありがたいと思います。

また、エコツーリズムの国際大会というのを、併せてこの期間中になりますが、10月19日～21日までサイクリングのお話も含めてやるようになっております。これもオープンな大会で、シンガポールとか韓国の知事だとか、海外からも参加が予定されていまして、JTBの田川社長が実質上、主催者のようなかたちもございますので、もしよろしければこういうところにもご参加をいただき、もっとお互い知恵を磨いて、こうしたグリーンツーリズム、エコツーリズム、スポーツツーリズムというものを出していければなと思います。

世羅の芝桜であるとか、備北の公園であるとか、花をつないで花回廊を含めたような周遊コースも考えられると思いまして、ぜひ湯﨑知事のご協力とご理解をいただければと思います。

【湯﨑知事】これは本当に素晴らしいので、われわれもできるだけ広島県内のPRに努めていきたいと思いますし、県庁とか学生諸君、こういう人たちにも参加を呼び掛けていければと思います。

（８）相互広報連携・ＰＲ

【湯﨑知事】それから、これはわれわれからご紹介したいと思うんですが、今のこういったものを告知していく上で先般から始めさせていただいた広報媒体の相互連携ですね。これも非常に効果的ではないかなと思っております。これまでの実績として、広島県でも菓子博がございましたけれども、これを鳥取県政だよりで４月号に記事を掲載していただいたりしております。さらにいろいろなメディアがありますので、それも活用して相互の広報を進められればなと思っております。

例えば、ツイッターであるとかフェースブックであるとか、これは広島県も鳥取県も両方持っておりますので、こういった媒体を活用すると、また違った人たちにリークすることができるのではないかなと思いますし、広島県あるいは鳥取県もあると思いますけれども、テレビの広報番組、そしてまた情報ラックみたいなものを設置されているのではないかと思いますけれども、広島県でもほぼ全コンビニ、90％のコンビニに情報ラックを置いていまして、ここにいろいろなパンフレットを置いていますが、こういったような、これもメディアミックスだと思うんですけれども、活用もできるのではないかなと思います。こういったものを通じて、積極的にお互いのいろいろなものをPRできればと思います。

ついでにちょっと宣伝をさせていただきますと、「おしい！広島県」というのが。

【平井知事】何か今度は「おしくない」と書いてあります。

【湯﨑知事】ご存じだと思うんですけど、実はこれに反対する人が出てまいりまして、河原さぶさんという呉市出身の俳優さんなんですけど、「おしい！に反対だ」ということをおっしゃいまして、じゃあ、これは決着をつけないかんということでいろいろ勝負をしました。勝負をしたのはこの河原さぶさんとアンガールズの田中さん。勝負をしたというのは、河原さんが広島県副知事役で、「おしい！広島県」に反対する副知事で、田中さんが「おしい！」を推進する観光課の職員という設定で、広島県を旅しながら勝負をした結果、やっぱり「おしい！」ということになりまして、新たな「やっぱりおしい！広島県」という新しいPRとして今年の夏から始まりました。今度はこれは20分のドラマ仕立てで作っておりまして、この後ろにあります帝釈峡とかしまなみ海道を含めて旅をして回るというロードムービーになっています。ぜひご覧いただきまして、結構、笑えるものもありますので、笑っていただいて、また鳥取県からも多くの皆さんに来ていただければと思います。

次は来年になるんですが、愛媛県と協働で「瀬戸内しまのわ2014」というものを開催いたします。これは3月21日から10月26日までの長い期間になるんですが、この期間にわたってそれぞれの地域でテーマを持ってイベントを開催するので、島に皆さんに来ていただきたいと思っております。春は花とサイクリング、夏は海とクルージング、そして秋は食とアートというテーマになっています。季節を通じて楽しむことができますし、何か大規模なイベントというよりは日常生活に密着した地元ならではの魅力を皆さんに知っていただく、味わっていただくという企画になっていますので、ぜひおいでいただきたいと思います。

鳥取には非常に大きな広い日本海というものがあって、これは素晴らしい景色、海の透明度が高いですし、素晴らしい海があるのですが，広島、愛媛には非常に穏やかな瀬戸内海、そしてどこが本土かどこが島か分からないぐらい、島がたくさんあって、また鳥取とは違う海の景色でありますので、ぜひ併せて楽しんでいただければと。

【平井知事】今、行政のお互いの連携につきまして、湯﨑知事のご提案がありましたが、メディアミックスの時代でありますので、県の広報とか、あるいはテレビ番組等はもちろんのこと、SNS と言われるようなツイッターやフェースブックを活用した広報もそれぞれにやっておりますので、ここで今の「しまのわ」のイベントでございますとか、私どもの先ほど申し上げた「全国都市緑化フェア」、さらにエコツーリズムの国際大会もございますが、来年は広島県にもご協力をいただいて、障がい者芸術・文化祭を 1 年かけて大体今のシーズン、やっていくことになります。これも協働でお互いの地域で流して、近いですから、それをもっと知っていただくことが大切かなと思いました。

また、旅のスタイルがだいぶ変わってきて、今回われわれは異変を感じています。県内ナンバーよりも県外ナンバーのほうが国道の幹線を走る道路に増えてきております。もちろん広島だとか西のほうの車も多うございます。また、トラックなんかも増えてきている

と思います。これも、多分、こちらもそうかなと思いますけれども、中国道とか山陽道をスルーしてこっち側のほうにやってくる。通行料がただですからそういうのも増えていると思うんです。

さっきのラックの話がありましたけれども、今までのエリア感覚を見直さなければいけないと思うんです。今日も高野のほうの道の駅を拝見させていただきまして、われわれもそうなんですけれども、通られるお客さまはこの辺を一つの通り道として、一つのルートとして考えておられますので、そのルート沿いのものをもっとお互いに置き合う、情報を提供し合うことを考えなければいけないなと思いますので、その辺をぜひまた事務的に突っ込んだ話をさせていただいて、その情報を共有できるツールを、ラックのことなどを考えてみたらいいのではないかなと思いました。

また、行政連携で１点だけ、これはお答えがなくても結構でございますし、考えていただいても結構でございますが、いろいろな意味で県境を越えて事件が起こったり、それから対処が必要なことが出てきます。先般、非常に残念な事件がありまして、広島県で女の子が殺されて山の中に捨てられてしまったと、呉のほうでそういう事件がありました。報道されておりますけれども、実は子どもたちは広島県と鳥取県とをまたいで動いています。

いろいろな事情が重なり合ってそういうふうになっているわけでございまして、こういうのはやっぱり従来以上に児童福祉、児童保護のほうの世界でも児童相談所同士であるとか、そういう子どもたちの自立の支援施設もあるのですが、それがそれぞれの県内の事情で動きがございまして、こういうものが影響してきていることもあるわけです。個別の子どもの特性とかをお互いに情報を共有して把握して、みんなで対処しないと残念な事件につながってしまうということも起こるわけであります。道路が近くて便利になるというのは、こういう行政領域で深刻な問題も共有することになってきたなと、今回の事件を通して思いました。

ですから、ぜひこの辺をまた湯﨑知事にもリーダーシップを取っていただきまして、両県こうしたシビアな行政領域についても問題意識を共有して、共同で処方箋を書いていくということも重要だと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。

本当に今日は素晴らしい会をセッティングしていただきましてありがとうございました。ちょうど雨も小やみになってまいりましたので、終わりかなと思いますが、本当に今日は素晴らしい環境の中で実りの多い意見交換ができたことを感謝申し上げたいと思います。

【湯﨑知事】ありがとうございました。本当に、ある意味でいうと山らしい、雷も花を添えていただきました。雨の音が直接聞こえるというのも自然の恵みの一つではないかなと思いますけれども、こういった地域が実際には広島県にも鳥取県にも大変数多くございますし、これをまた活用していこうという「里山資本主義」について平井知事からございま

した。引き続き、広島県、鳥取県、さらには中国地方全体で協力しながら、積極的なプラスの連携、それから今ご指摘のありました課題。難しい問題についても協働して連携ができるように、事務方を含めて協力を深めさせていただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は本当に遠いところおいでいただきまして、ありがとうございました。

【平井知事】どうもありがとうございました。

４　閉会・記者会見

【田邉審議官】ありがとうございました。以上をもちまして、本日用意しておりました意見交換の議題をすべて終了いたしました。ありがとうございます。これをもちまして、第３回鳥取・広島知事会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

それではこの場で引き続き、約 10 分ほど会見の場に入らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、質問のある記者は社名とお名前、そしてどちらの知事に対する質問かということをおっしゃっていただいて、質問をお願いします。挙手をお願いしたいと思います。

【山陰中央新報】山陰中央新報の錦織と申します。

両知事になんですが、フェイスブックを使った情報発信、情報提供を両県お互いに深めていこうということでしたけれど、これはもう具体的に議論をする方向で詰めていくということでよろしいんでしょうか。

【平井知事】例えば私どもですと、toritter（とりったー）というツイッターサイトがあって、それから動画チャンネルを県としても開設しておりまして、こういう「おしい！」「おしくない」のロードムービーほど視聴はないかもしれない、時々ヒットして見られたりする、そんなサイトもございます。そういうのをお互いにコンテンツ共有をしたり、情報を紹介し合ったりというのを頻繁にやってもいいのではないかなと思いますので、また湯﨑知事と相談させてもらいたいと思います。

【山陰中央新報】自転車の件で、ツール・ド・ジャパン（仮）というのがありましたけれど、これはそういうルートを、あるいはイベント、大会コースといったものまですべての広域連携という状態なのか、ちょっとまだ今日の今日であれですけど、そういった考えでよろしいでしょうか。

【湯﨑知事】これは、ツール・ド・ジャパン自体はイベントになるんだと思うんですけれ

ど、そこに至るまでにはいろいろと進めなければいけないことがあると思うんです。いずれそこに至れるように連携をしながら、進めていければ素晴らしいのではないかと思います。

【平井知事】実は、ジャイアントという会社があります。そこの一つの夢としてツール・ド・アジアというのをやりたい。それをツール・ド・ジャパンとかツール・ド・コリアとかツール・ド・台湾。こういうものをつなげてやりたい。これは多分、中長期的な構想だったと思います。それに向けて、やっぱりわれわれでそういう地域でネットワークを張っていかなければいけないと。そのツール・ド・ジャパンのイベント開催の一歩手前で、コース設定をこの辺で縦横無尽に作ることができれば、ここはそういうアジアの集客のメッカになり得るところだと思います。その辺から少しずつステップアップして、いずれはツール・ド・ジャパンの開催というところも目指したいなという気持ちで申し上げました。

【湯﨑知事】ご承知のように、来年「しまのわ」の一環でしまなみ海道を使った、これは１万人規模のサイクリングイベントをやりたいと準備をしておりますけれども、そういったところでの経験も活用しながら、さまざまな安全対策であるとか、あるいは道路が止まったりしますのでそこにおける地元の対応であるとか、いろいろなことがあるので、そういったことも応用しながら、さらに大規模に進めていけるように知見を深めていきたいと思いますし、そのためにいろいろなインフラ上の対応というのも重要なのだと思います。

【新日本海新聞】鳥取県の新日本海新聞の田村と申します。

両県知事にお伺いしたいのですが、そのサイクリングの件なんですけれども、面白いなと思ったのが、そのサイクリング、スポーツツーリズムの両県ともメッカであるというお話があって、平井知事のほうで自転車のメッカとして中国地方を売り込みたいというようなニュアンスのお話があったのですが、今後両県でスポーツツーリズム、サイクリング、エコツーリズムを含めてですが、協働プロモーションをしていくようなお考えは今の時点であるのでしょうか。

【湯﨑知事】まさにそういうところに発展させていきたいなという。最終ゴールというのはそういうことだと思うんです。ただ、中身はきちっと準備を、つまり受け皿をきちんと用意していかないと PR だけをしてもお客さんが来てがっかりするということになりかねませんから、まずは例えばしまなみと今の大山地区のような既に確立した地域を協働して PR するということは、まず最初のステップとしてはあると思うんです。

それから、中国地区全体をまさに縦横無尽に走っていけるようなサイクリングパラダイスというふうに言いましたけれども、そういうものとして PR をしていくためには幾つかやっていかなければいけないことがあって、それはまた協力、連携しながら進められるかな

と思います。

【平井知事】結局、今、素材ができ始めているんです。日本の中で見渡してみて、きちんとしたサイクリングコースというのはそんなにいっぱいはないんです。しまなみ海道が湯﨑知事のご尽力で認知されるようになってきました。また、大山を回るところ、これも交通規制といいますか、交通標識の路面表示をしたり、それから給水スポットのようなところ，コグステーションなどを整備をしたりしまして、これもひととおりのものができているというところにきました。

実は先般、台湾のそういうプロモーション会社がやってこられまして、恐らく鳥取県も商品化できるだろうというような感触が高まってきました。そうすると、世界に向けて日本のサイクリングのスポットとしてしまなみ、あるいは大山、こうしたところが旅行商品としてつくられているわけです。だから、こういうことでここに一つの集積地が生まれ始めるということだと思います。

もっと言えば、この庄原のあたりなども含めてまだまだサイクリングコースというのは作り得ますし、そうした拠点性のあるしまなみと大山を結ぶコースというのも夢ではないと思うんです。そういうことを協力してもっと目指していこうじゃないかというのが、今日の話の流れで大体見えてきたのかなと思っています。

【ＮＨＫ】NHK の秦と申します。

まず、平井知事にお伺いしたいのが、道の駅たかのを今日ご覧になったときに、どういうポイントでご覧になっていたのか。終わりのときに「勉強になりました」と、トマトジェラートを食べられた後におっしゃっていたんですけど、それはどういう点が勉強になったのか。

湯﨑知事には、どういうポイントを見てほしくて今日ご案内されたのかというのを、それぞれお願いします。

【平井知事】今日は里山資本主義のウオール街のような庄原に来れ、そのメッカである高野に来られたことはいい経験だったと思います。道の駅たかのは、地元の方はお分かりにならないのかもしれませんけども、ものすごい商品の品ぞろえがいいです。それがまた、すべて地場の原材料と地元の人の手によってできてきています。これは、ここまでもってくるのは恐らく大変だと思います。なかなかこれだけのものはない。その意味で里山資本主義のウオール街のような、そういう芽をそこで私も拝見することができました。

また、使われている木材、すごく長いビームといいますか、梁。あれはその筋の人が見たら、なかなかない物であります。あれを集成材という手法を利用して地元の木で作られたわけでありまして、あの巨大な道の駅が実は木造だったということで驚きました。

さらに雪室でありますけれども、これも天然のクーラーになっていまして、われわれ雪

国の人間からしますと、雪というのは邪魔者でございまして、除雪するほどにお金がかかるものでありますけれども、ああいうふうに使えるのだったら除雪のしがいがあるなというふうに思ったわけであります。

鳥取県でも、実はサントリーの天然水というブランドがありますが、あれのミネラルウォーター工場に雪室がございまして、それを工場内のエネルギーシステムとして使っているわけです。そういう例はあるんですけれども、ああいうふうに特産品の加工や販売と直結させるかたちであったというのは非常にユニークな着想だと思いますし、雪の多い山陰の人間としても参考になりました。

実は、鳥取県は氷温技術という技術開発をし、これは民間の研究所がパテントにして認証するようになっています。氷温の凍るか凍らないかの温度で管理をするということでうまみ成分が増してくるということが知られています。これが、後に氷温の冷蔵庫になったりしていくわけでございますが、その原理を、雪を使ってやっておられるわけでありまして、これは非常にわれわれにとってもヒントになりました。

【湯﨑知事】さすが平井知事、私があまりべらべらと説明することもなく、本当にしっかりとキャッチをしていただいたなと思っておるんですけれども、広島県としてご覧いただきたかったのは、実は今日フリップも用意していたんですけれども、今の高野というのは未来創造支援事業で県の記者の皆さんもご存じだと思いますけれど、過疎地域の未来創造支援事業によって作っていったものです。

この未来創造支援事業の大きなポイントは何かというと、目標は地域の雇用。そして、地域に人が定着していく。つまり、産業対策をすることによって地域に人が定着をして、地域の維持を図っていこうということが大きな目標であって、それを進めていくために、地域のそれぞれの強みを活用してやっていこうということがポイントの二つ目なわけであります。

今、平井知事からご指摘いただいたことというのはまさにそういう点でありまして、地域の強み。これは何かというと、実は雪なんです。高野でも、これまではずっと雪というのはまさに邪魔者で、本当に困ったものだったと思うのですが、それを地域資源に変えていくということなんです。弱みと思っていたものが、実は強みになるということ、これを応用していただく。

また、リンゴも含めてこの地域には非常に素晴らしい農産物がたくさんあるんです。お米も県内でも最もおいしい地域の一つだと思いますけれども、もちろん野菜もたくさんある。これを地域の中で加工して、そして提供することによって今の雇用、あるいは人の定着につなげていく。道の駅での仕事も発生しますけれども、最終的には地域において農業に新規参入者が入ってくるということも含めて目指していきたいと、これは10年間、計画を立てて進めてきているものであります。

そういったポイントを、本当に的確にキャッチしていただいて今もおっしゃっていただ

きましたので、本当にさすがだなと、ご覧いただいた甲斐があったと思いました。

【平井知事】ありがとうございました。

【田邉審議官】もしよろしければ、あと１問だけお受けしたいと思います。

【中国新聞】中国新聞の新本といいます。今日は非常にたくさんの項目を話し合われたと思うのですが、お互いに中山間地域を抱える県として、いろいろサイクリングだとか共通するものがあったと思うんですが、両知事にお伺いなんですけど、特に今日の会談で成果があったと思われる分野ですとか項目というのがあれば、それぞれ。

【湯﨑知事】すべての項目でよかった感じではないかなと思うぐらいですけれども、一つはこれからの大きな課題というところで、例えば地域包括ケアだとか、そういうところで協働して検討していきましょうと。これは具体的に何ができるかというのは、今後検討も必要ですけれども、本当にこれから急速に高齢化が進んでいって、こういった地域包括ケアシステムというものを構築していかなければならないところで、知見を共有していくというのは非常に重要なことだと、あるいは有効なことだと思いますので、そういうところがポジティブに進められるようになったのは、素晴らしいことかなと思います。

また、これはずっと前から取り組んでいることですけれども、子育てについても改めて一緒にできるといったこともプラスだと思いますし、また、サイクリング、観光について、実は大山でも路面表示をされたというのは、実は私、知らなかったんですけれども、そういった情報もいただいて、本当に整備が進んで、またジャイアントも来られたということで、こういう共通点が既にたくさんあるんだなということがよく理解できたので、対外的なアピールもしやすい。これをぜひやっていこうというようなことを提案できた、そんなことが非常に素晴らしい成果だったと思います。

【平井知事】今日、こちらに参りまして、つくづくつながったなという気がいたしました。中国地方というのはえてして５つがばらばらになりがちな歴史をたどってきたと思うんです。しかし、今、松江道路、実は鳥取道路というのも鳥取県のほうにはできていまして、こういうようなネットワークがつながり始めて、今まさに変わり始めているところです。これがいろいろな意味でのシステムチェンジを生まなければならない。里山資本主義という言葉を出しましたが、今、東日本大震災以後、新しい価値観で生きようとしている人たちが増えてきたというふうに、こうして絆が深まり、一体感が増した中国山地を中心とした地域がターゲットになり始めている。それを介護のシステムなり、あるいは子育てなり、そうした領域でも支えていくということが、今日話し合いできたのかなと思います。

さらにつながってきたことで、スポーツツーリズム、なかんずくサイクリングという、

今、非常に旬なテーマで協働で戦線を張ることができそうだということで、アライアンスが組めたことは非常にありがたかったと思います。本当は「はだしのゲン」でもアライアンスを組んでいるわけでありますが、ぜひ漫画の自由のために共に戦っていきたいと思います。

【田邉審議官】ありがとうございました。それでは、以上で会見を終わります。両知事、本当にありがとうございました。